


平成 28 年 1 月 18 日

大平 勇 議長 様

海住恒幸 

## 研修会参加報告

研修会名称 「地域から地方自治を考える 第4回地方自治研究会」

日時 平成 28 年 1 月 16 日（土曜日）午後 2 時～午後 5 時

会場 名城大学名古屋駅サテライト 13 階会議室

名古屋駅前 徒歩 3 分

## 内容

愛知県小牧市長が提案した図書館建設に住民投票で「ノー」とする判断を示した同市の事例報告（小牧市議会議員）を受けたあと、図書館のあり方と指定管理者制度、地方自治を考える場となりました。

### 【小牧市立図書館】

現状の小牧市図書館は、昭和 53 年(1978 年)の建築で築 38 年を経過している。老朽化のため、前任の市長当時から新図書館の建設は方向付けられているが、市長交代によってツタヤ図書館にしたいとの方針が示されたことから、住民の中から「市民の意見を聞いていない」などの声があり、住民投票に発展し、議会の修正案（住民投票）を可決し、昨年、「現在の図書館建設の是非を問う住民投票」が実施され、「反対」が過半数を上回った。この結果について市長は一応の「白紙撤回」を表明したが、市長は計画を断念したわけではなく、問題はくすぶっている。

現在の同図書館は、市の直営であるが一部業務を TRC（図書流通センター）に委託している。その結果、12 人いた正規の市職員は 9 人となり、時給 850 円（司書資格無しの場合）から始まる賃金体系もとの TRC スタッフ中心の運営がなされている（館長は、元公立図書館長）。

報告者によれば、開館時間は午前 9 時 30 分から午後 9 時までと長くとっている分、窓口職員のやりくりがつかず休憩をとれない状態が起きており、スタッフの入れ替わりがかなり早い状態が続いているという。

「人が育たない。このため、地域の郷土資料や自治のことがわかる人がいない。本来、図書館では、利用状況を見ながら、皮膚感覚を肥やし、“本棚を耕す”という作業をこなせることが必要だがそれができそうにもない」と、辛口の評価をした。



これに対し、市長が示したツタヤ図書館計画が住民投票の結果、「待った」となったのは、次のような住民の意思が示されたと見る。

一つは場所の問題。現在は、小牧山（小牧城跡）のふもとにある落ち着いた場所にあるが、市長案は名鉄小牧駅前再開発によって生じた区画に進出したキーテナントが撤退したため、それに代わるのが図書館と位置付け、駅前のにぎわい回復につなげようとするもの。これに対して、現在の静かな環境での図書館を求める市民の意向があった点。

第二に、市内各地域にある分館の取り扱いへの不安感。

第三に、ツタヤ図書館とする管理方法への疑問。

第四に、市民の意向を聴かず、市長が勝手に決めたということへの不信。

住民投票総体としては、「市長の計画を止める」ということで一致した結果だと受け止められている。市長は、自民党系であるが、自民党市議も住民投票を求める署名運動に参加したという。

しかし、この結果に対して小牧市長は、「なにがアカンかわからない。住民アンケートをとって進めたいと言っており、まだあきらめていない」という。

研究会に参加したのは、市議（小牧市・江南市・松阪市）3人と愛知県内の町議1人、元公務員2人、市民1人、地方自治の研究者2人（名城大学、三重短期大学の各準教授）の計8人。図書館に導入される指定管理者制度のマイナス点を指摘する人が多かったが、一定の成果もある点を指摘する三重県からの参加者（松阪市議と三重短期大学）の声もあった。

特に、三重県内は、もともと、県立、市町とも、図書館の水準が低かった。現在、三重県内で指定管理者制度が導入されているのは、桑名、松阪、伊勢の3市の図書館。同県内で最も水準が低いとされてきたのはこの3図書館で、指定管理者制度が採用されたのは、偶然にもこの3図書館だった。

公務員の直営により水準維持を図っているという参加者の声もあったが、一定のサービス水準を確保できない自治体では指定管理者という民間の手を借りることで以前よりはベターな水準が守られるようになったのが実情で、それができないのに直営にこだわっているのは住民が不幸という指摘（松阪市議）もあった。

今回のテーマは、「公共施設の再編、公共施設のあり方について」